

SLJ 2008 イン・静岡レポート



SLJ 2008 イン静岡が11月7日～9日にわたって開港前の富士山静岡空港にて開催されました。JAPA中部支部からは9名の会員が地上スタッフとして参加、フライトサービス(管制)やマーシャリングなどを担当しました。

エアポートフェスタの併催ということもあり、雨天にも係わらず大勢の来場者があり、日本航空協会の発表では2日間で53,000人とのことでした。

以下は、スタッフとして参加された福井さんのレポートをベースに編集させていただいたものです。

11月7日(金)

本日はS L Jのためのフライインが主

懸念された天気は急速に快復し、午後にはほぼ快晴に。

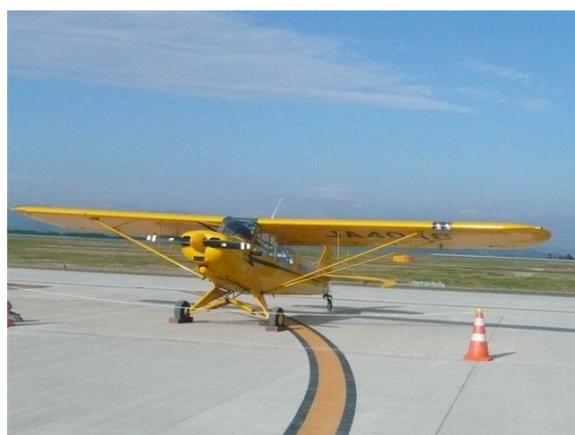
JAPA テントにて打合せ。我々は『マーシャリング』担当となる。間もなく先行機(展示機)が到着。いきなり誘導せざるを得なくなった。

以降次から次へと飛行機が到着。その中にはグライダーを曳航したスーパーカブやモーターグライダーもあった。

各機が停止すると機長に CAB へフライトプランのクローズを通知するよう促す。これを怠ると RCC の発動など大変なことになる。なにしろ静岡空港は未だ場外離着陸場扱いなのだ。

又、到着機の合間を縫ってトライアルも行われたが、天気晴朗なれど気流が悪く、マイクロライトやモーターパラは早々に着陸。又、到着機も異口同音に気流の悪さを口にしていた。

熊本からのアクロチーム・スーパーウイングス(FA200・4機)は出発地悪天候の為、本日の来場中止。



11月8日(土)

いよいよS L Jが開幕である。

予報どおり、雨。午前中は気温はそれほど低くなく、雨も強くはない。一時的には止み間もあったが、昼前からは本降りです。傘無しでは居られない。中部以西の多くの飛来予定機がキャンセル。スーパーウイングスは今日もキャンセル。結局9日も来られなかった。

八尾、阿見、調布などからは雨雲を掻い潜ってボツボツと機体が到着。羽田や伊丹から新聞機も到着し駐機場はそこそこにぎやかになって来た。

午後からは出発機となる。しかし、雨が本格的になって皆やや腰が引けた状態？それでも三々五々帰投が始まり、名古屋のJA3698も明日(9日)の展示に向けて明野へ15時40分頃出発した。



(左写真) こちらはJ A P A会員が担当した、「富士山静岡フライトサービス」パイロットならではのきめ細かいサービスで好評でした。

雨の中、このようなテントで無線に従事しました。

まさかこんなところで管制しているなんて思いもよらなかったでしょうね～

(右写真) 雨の中、殆どの展示飛行は中止になったが、ディープブルースのアクロは演技を限定して決行。日本ではめったに見られない、飛行機とは思えないほどの曲技にみんな酔いしれていた。

我々にとっての2日目も無事終了。ずぶ濡れで特に靴の中がグチョグチョになった。

11月9日(日)

SLJ2日目の日曜日。雨は無く、気温はぐっと下がって寒い。

朝から問題発生！取り付け道路が大渋滞で途中から全然動かなくなった。TWRオープン予定の07:30に間に合わない。何人かが車を降りて会場に走った。我々の到着は更に遅れて8時少し前。慌ててピストに行くともう3機も到着していた。

今日は天候が昨日より良いので到着機が相次ぎ、本来の忙しさになり、一時は息つく暇も無いくらい。駐機場も手狭になったが予定機は限られているので見込みは立っている。

暫くして再び小雨がぱらついてきたが、到着しなかったスーパーウイングスを除き殆どの展示飛行が実施された。

昨日中止となったエアロックの曲技も雨の中演技決行！横山真隆の操縦が堪能できた。隣接の航空自衛隊静浜基地よりT-7やT-4の編隊も飛来した。

いよいよフライアウトの時間、天候悪化を避けて多くの機が早めの帰投を希望してきた。最後のJA4145が15時20分頃離陸し全機の発進完了。

何はともあれ事故も無く無事3日間が終了してよかった。

JAPA中部支部としては、管制（富士山静岡フライトサービス）やマーシャリング等、SLJで大きな責任を果たすことが出来ました。これも会員はじめ皆様のご支援の賜物と厚くお礼を申し上げます。



